

平成 28 年 3 月 1 日

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証二部)
代表者名：代表取締役社長 奈良 彰治
問合せ先：専務取締役 樋口 真康
(TEL：045-317-7888)

当社株式の時価総額に関するお知らせ

当社株式は、平成28年2月において、月間平均時価総額及び月末時価総額が10億円未満となりましたので、今後の見通し等につきましてお知らせいたします。

記

1. 当社株式の時価総額について

当社株式は、平成28年2月の月間平均時価総額及び月末時価総額が10億円未満となりました。東京証券取引所の有価証券上場規程第601条第1項第4号a本文では、9ヶ月(事業の現状、今後の展開、事業計画の改善その他東京証券取引所が必要と認める事項を記載した書面を3ヶ月以内に東京証券取引所に提出しない場合にあつては、3ヶ月)以内に、月間平均時価総額及び月末時価総額が10億円以上とならないときは、上場廃止になる旨規定されております。

(ご参考)

- (1) 平成28年2月の月間平均時価総額 869,897,820円
- (2) 平成28年2月の月末時価総額 790,816,200円
(2月29日終値 123円×2月29日上場株式数 6,429,400株)

2. 今後の見通しについて

当社は過去において売上依存度が高かった国内顧客の設備投資が縮小傾向に転じたことを受け、これまでの数年、海外市場での新たな顧客開拓に取り組んでまいりました。

この結果、平成27年7月期末におきましては海外顧客の売上高比率が総売上の78%と前期比30ポイント増加するなど、海外市場へのシフトにおいて一定の成果を上げてまいりました。

当該海外市場においてはスマートフォン等の小型LCD用ドライバIC検査装置需要が活発であり、当社はこれまで当該分野で新規顧客を獲得するとともに、新たな引き合いを頂いております。

また、昨今、当該市場を牽引してきた主に中国のスマートフォン需要の増加は引き続いているものの、伸張性に陰りが見えてきたことから、当社は新たな取り組みとして、今後TVの大型化や高精細化により新たな検査ニーズが見込まれる、TV用LCDドライバIC検査分野等に注力いたしております。

当社はこれらの取り組みを推し進め、新たな市場ニーズに応えることで顧客の獲得と早期の安定した収益の確保に努めるとともに、業績の回復と企業価値の向上を図り、引き続き東京証券取引所での上場を維持するよう努めてまいります。

また、今後3ヶ月以内に東京証券取引所へ「事業の現状、今後の展開、事業計画の改善その他東京証券取引所が必要と認める事項を記載した書面」を提出し、開示する予定であります。

株主の皆様をはじめ、関係者の皆様には多大なご迷惑ならびにご心配をおかけいたしますが、今後とも何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上